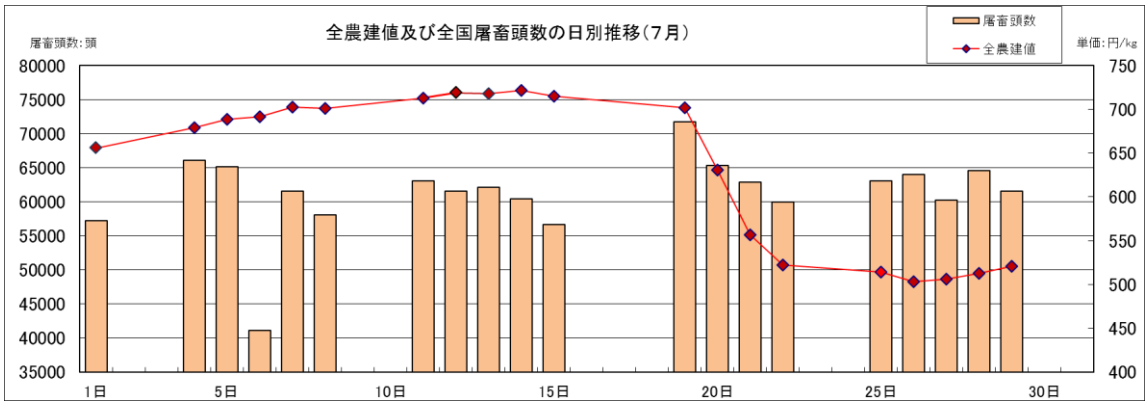
肉豚インフォメーション（7月）

【全農建値】

2022年7月（税抜）	2021年7月（税抜）
634円/kg（49円高）	585円/kg

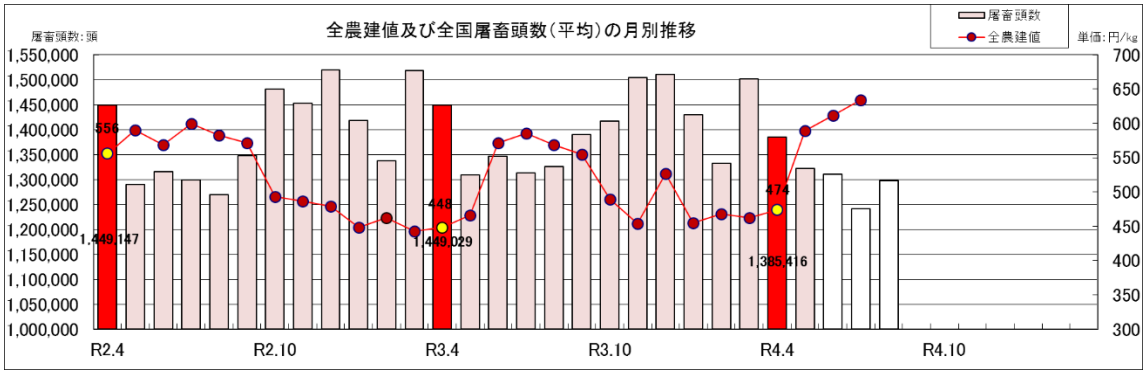
※過去30年で　最も高い相場

7月は、猛暑の影響による発育遅れが見られ、中旬まで出荷頭数が少ない状況が続いたため、輸入豚肉の価格が高騰していることから、非常に高い相場で推移した。下旬にかけて出荷頭数が増えたことや学校給食の需要がなくなったこと等から急反落する展開となった。



8月以降の動向

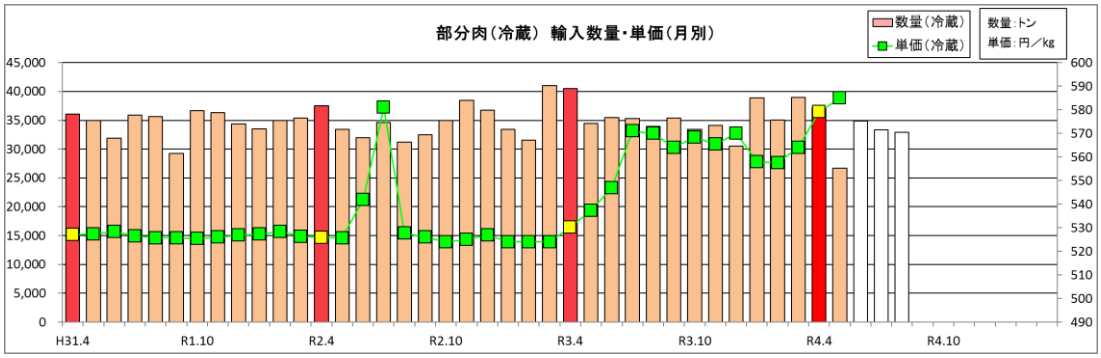
8月の出荷頭数は、前年同月をわずかに下回ると予測されている。

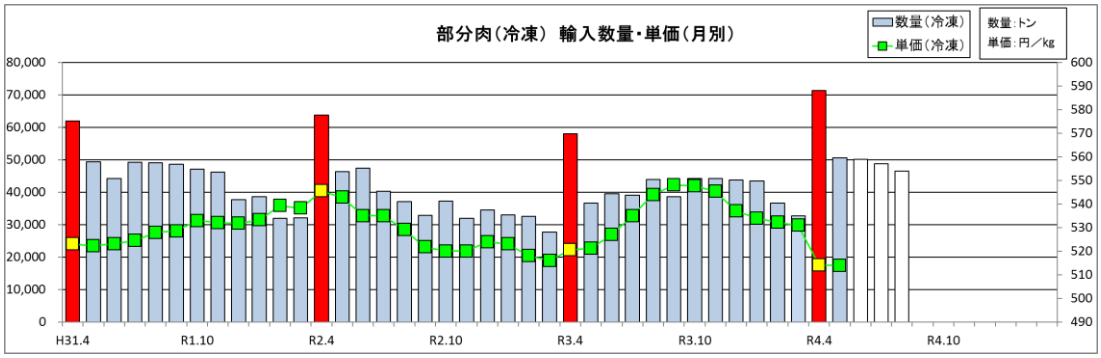


冷蔵品輸入量は、北米で国内需要の高まりによる現地価格の高騰や為替相場の変動等から、7月、8月ともに前年同月をやや下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、7月は、前年の輸入量が外食需要の減少から少なかったことに加え、価格面等で優位性のあるスペイン産の買い付けが多かったこと等から、前年同月を大幅に上回ると予測する。8月は、北米産を中心に為替相場の変動等の影響が大きくなる一方で、7月と同様にスペイン産の買い付け量が多かったことから前年同月をやや上回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期を大幅に上回ると予測する。

（ＡＬＩＣ　豚肉の需給予測について　7月27日）





新型コロナウイルスの第 7 波が急拡大する中、政府は「感染症対策と社会経済活動との両立を図る」としているが、飲食店や観光地では予約のキャンセルなど影響が出始めている。

一方、家庭内消費に目を向けると相次ぐ食料品の値上げによる節約志向もあり以前のような需要は見られない。

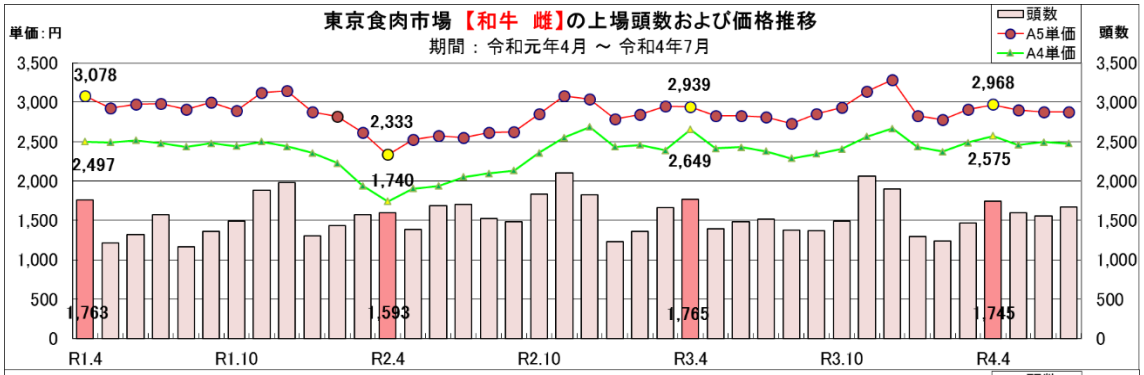
また、北関東で豚熱の発生が続いており、7 月末に栃木県の大規模農場で豚熱が発生している。大規模な殺処分となるため今後の需給面でも影響が出る可能性がある。

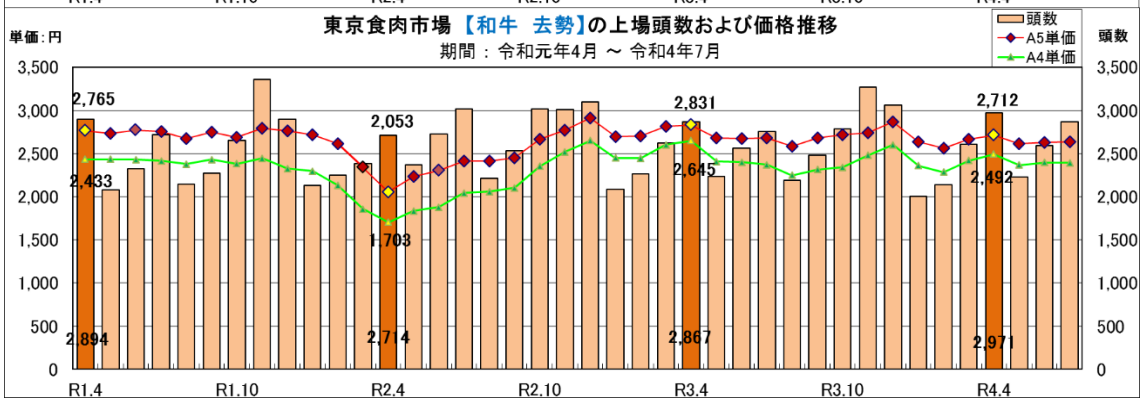
8 月の相場は軟調に推移する見通し。
全農建値（税抜）予測レンジは 520 円～580 円とする。

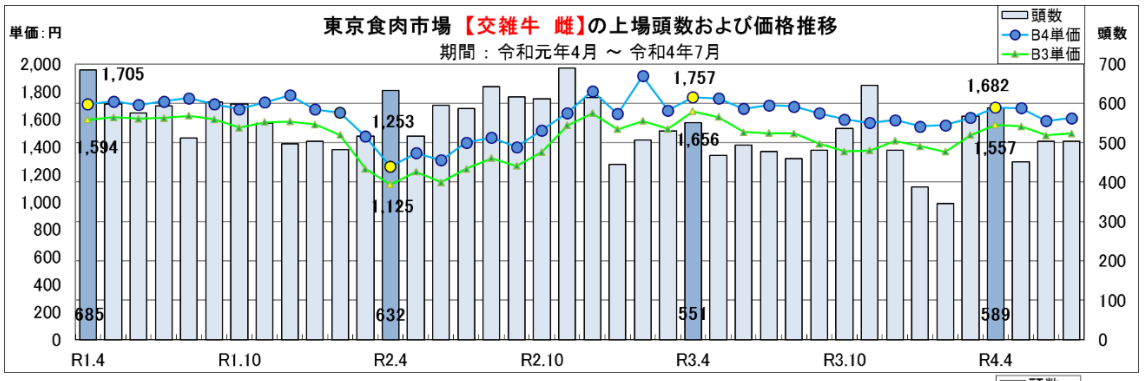
肉牛インフォメーション（7月）

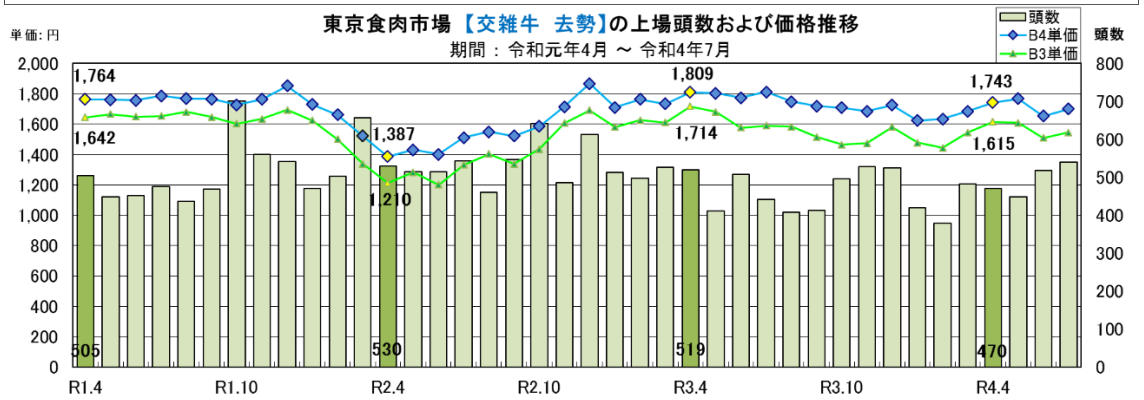
●7月の動向

和牛、交雑牛はいずれも弱もちあいで推移した。和牛の雌は比較的相場を維持したが、去勢は100円近く下げた。一方、交雑牛は上旬に緩んだが、徐々に相場を戻す展開となった。









●８月の動向予測

全国出荷頭数は前年より和牛は減少、交雑牛と乳牛が増加を見込む。卸関係はそれなりに在庫を抱えており、８月前半は旧盆に向けた手当てが行われる時期だが動きは鈍そう。コロナ感染状況によっては、７月の相場水準を維持もしくは下回ると予想。

８月相場は「弱もちあい」の展開と予想。

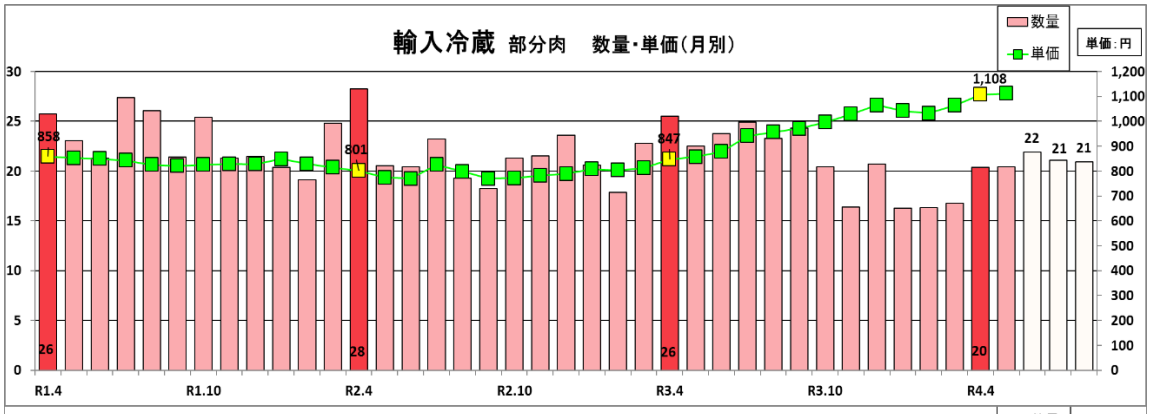
和牛去勢　A5 等級 2,550 円（税込み）　　A4 等級 2,400 円（税込み）

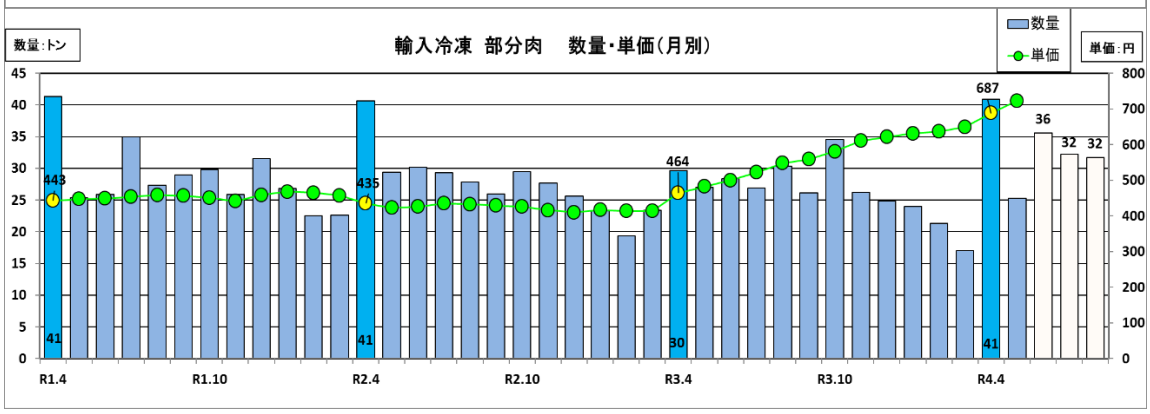
交雑去勢　B4 等級 1,650 円（税込み）　　B3 等級 1,550 円（税込み）

●輸入牛肉

冷蔵品輸入量は、為替相場の影響や前年同月の米国産の輸入量が多かったこと等から、７月と８月はいずれもかなり大きく前年同月を下回ると予測する。なお、３カ月平均でも、前年同期をかなり大きく下回ると予測する。冷凍品輸入量は、為替相場の影響はあるものの、前年同月の輸入量が米国産牛肉の米国内及びアジア諸国における需要増加による現地価格の上昇等により少なかったことから、７月は大幅に、８月はやや、いずれも前年同月を上回ると予測する。なお、３カ月平均でも、前年同期をかなり大きく上回ると予測する。

（ＡＬＩＣ牛肉の需給予測について７月２７日）





●消費動向

７月はバラなどを中心に焼き材やモモがそれなりに動いたものの、中旬以降の天候の不安定感などから末端消費は伸びなかった。８月もバラやモモの動きが中心となるが、今年は平年より厳しい暑さが続いているため消費が落ち込むと見込む。

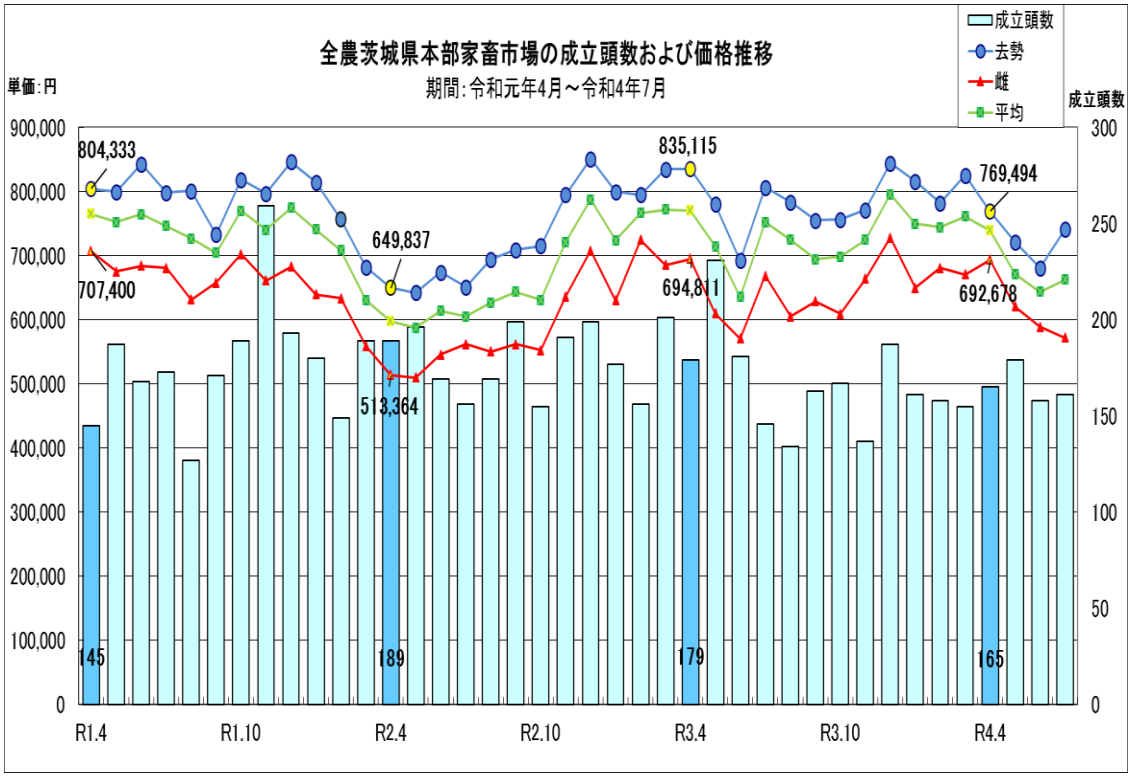
●全農茨城県本部家畜市場動向

素牛平均価格（７月税込）は、黒毛和種の雌は 572,000 円で前月比▲17,102 円、去勢は 741,157 円で前月比+60,468 円となった。上場頭数（成立）は 161 頭で前月比+3 頭。

次回上場頭数は 154 頭を予定している。

全農茨城県本部家畜市場実績（和牛子牛）　　（税込）

	年間平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年度　平均単価	673,129	597,847	587,552	614,164	605,310	626,590	643,417	630,988	721,612	787,489	723,844	766,531	772,200
去勢	734,165	649,837	642,142	674,214	650,911	694,492	709,130	714,912	794,798	850,944	799,476	794,563	834,562
雌	598,275	513,364	510,047	545,753	561,990	550,285	562,199	552,310	635,950	707,450	630,022	724,591	685,339
3年度　平均単価	730,497	770,842	714,424	635,683	752,483	724,531	694,491	698,157	724,764	795,341	749,776	744,087	761,385
去勢	787,183	835,115	780,016	692,025	806,078	783,500	754,794	756,500	771,029	844,433	815,667	781,744	825,290
雌	648,362	694,811	609,771	570,768	668,800	605,318	628,777	608,940	663,598	728,228	649,911	680,900	670,519
4年度　平均単価	679,104	739,233	671,234	643,591	662,357								
去勢	728,143	769,494	721,233	680,689	741,157								
雌	618,613	692,678	620,672	589,102	572,000								
2年度　成立頭数	178	189	196	169	156	169	199	155	191	199	177	156	201
3年度　成立頭数	167	179	231	181	146	134	163	167	137	187	161	158	155
4年度　成立頭数	166	165	179	158	161								



食肉インフォメーション（7月）

日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査6月度結果報告によると、昨年と違って行動制限が掛からなかったことから平日昼や土日祝日での客足が増え、全体売上は前年比で119.9%、2019年比で93.1%まで回復した。一方で夜間の客足の戻りは鈍く、居酒屋業態では2019年比で58.3%と苦戦が続いている。

量販店については、日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の6月の販売統計速報によると畜産部門の売上高は1,106億円(前年同月比97.7%、既存店ベース96.4%）で、内食需要の落ち着きや相場高騰で買上数が低迷し、伸び悩んだ。牛肉は国産の焼肉用が好調も、輸入物が高騰続きで国産豚や鶏肉へ需要がシフトしており、冷しゃぶ用の動きが特に良かった。

7月は中旬以降、夏休みで給食が停止となる一方で、行動制限がないことから外食需要の回復が期待されるが、猛暑や新型コロナウイルス感染者の増加傾向などで不透明感があり、厳しい状況が続く見込み。

○牛肉

6月は、GW明けから続く外食需要の失速と、物価上昇による節約意識の高まりから不振が目立った。梅雨明け後はバラなど焼き材関係が動きを見せたが、和牛・交雑ともにロースなどの高級部位が停滞しており、切落し用のスソ物中心の荷動きとなっている。

○豚肉

6月は、国産では引き続き輸入物の代替需要が続いた他、天候不順による出荷頭数減少により需給が締まり、スソ物の引きが強まるなど堅調な荷動きとなった。輸入はバラの引きが依然強いものの、円安相場による仕入価格高騰やコンテナ不足による供給不安が続いたことで先行きの不透明感が強く、全体的な動きは弱かった。

○業態別概況

表：全農いばらき食肉センター　業態別取引先実績（令和4年6月期）　単位：千円、%

年度	ＪＡ	どきどき	給食	仲卸	食肉専門店	量販店	飲食店	合計
令和2年6月	12,795	13,999	8,456	39,340	18,440	11,629	3,671	108,330
令和3年6月	12,548	13,903	10,509	34,890	14,300	9,636	9,281	105,067
令和4年6月	10,756	12,055	10,444	32,316	15,109	10,150	6,352	97,182
増減（R3-R4）	-1,792	-1,848	-65	-2,574	809	514	-2,929	-7,885
対比（R2-R4）	84%	86%	124%	82%	82%	87%	173%	90%
対比（R3-R4）	86%	87%	99%	93%	106%	105%	68%	92%